

製品安全データシート

整理番号：

1・製品等及び会社情報

化学物資等の名称：亜塩素酸ソーダー他

取り扱い会社名：すじたおディーブ株式会社

住所：埼玉県さいたま市岩槻区裏慈恩寺82-74

担当部門：仕入れ販売部

担当者：稲川 理

電話番号：048-876-9944

FAX番号：048-876-9944

作成者：稲川 理

E-mail：press@studio-deep.co.jp

使用目的：除菌・消臭

製造元：株式会社ジェー・ケイ・プラ

2・危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 自己反応性化学品 酸化性液体 腐食性があり、金属類、繊維類の殆どどのが腐食される。酸と接触すると分解して、二酸化塩素ガス、塩素ガスを発生する。有機化酸化物

分類対象外

健康に対する有害性

眼に入った場合は激しい痛みを感じ、直ぐに洗い流さないと角膜が侵される。長期に亘って皮膚に接触すると刺激により皮膚炎、湿疹を生じる。ミストを吸収すると気道 粘膜を刺激し、しわがれ声、咽頭部の高度な刺激を受け激しい咳、肺浮腫を生じる。内服した場合口腔、食堂、胃部の灼熱、疼痛、稀には食道 とう、胃に穿孔を生じることもある。

生殖細胞変異原生 分類できない

発がん性 生殖毒性 分類できない

分類できない

特定標的臓器・全身毒性 分類できない

特定標的臓器・全身毒性 分類できない

環境有害性

水生環境急性有害性 水生生物に強い毒性

GHS ラベル要素



注意喚起語
危険有害性情報

危険
有毒ガス発生の恐れ：強酸性
金属腐食の恐れ
呼吸器への刺激のおそれ

注意書き〔安全対策〕

すべての注意書きを読み理解するまで取り扱わないこと。
衣類及び他の可燃物から遠ざける。
適切な保護手袋および保護眼鏡、保護面を着用すること。
可燃物と混合を回避するために予防対策をとること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
他の容器に移し替えないこと。
容器を密閉しておくこと。
河川・海に投棄しないこと。

〔応急処置〕

火災の場合には適切な消火方法をとること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと、コンタクトレンズを容易にはずせる場合にははずして洗うこと。
皮膚又は毛髪に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと、汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
吸入した場合：被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。暴露又はその懸念がある場合は医師の診断、手当を受ける事。
気分の悪い時は医師の診断、手当てを受ける事
眼の刺激が持続する場合は医師の手当て、診断を受けること。
物質被害を防止するため流失したものを吸収すること。

〔保管〕

容器を密閉して、換気の良い冷暗所で保管すること。
施錠して保管すること。

〔廃棄〕

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

化学物質

亜塩素酸ソーダー (Sodium Chlorite)
苛性ソーダー (Sodium Hydroxide) 炭
酸ソーダー (Sodium Carbonate)

化学式 亜塩素酸ソーダー NaClO_2
苛性ソーダー NaOH
炭酸ソーダー Na_2CO_3
精製水 H_2O

含有成分及び含有量

成分・化学名	含有量M%	CAS No.	化審法No	安衛法 No.	PRTR法 No	毒劇法No
亜塩素酸ソーダ ー	1~10%	7758-19-2	非該当	非該当	非該当	非該当
苛性ソーダ	1~10%	1310-73-2	非該当	非該当	非該当	非該当
炭酸ソーダー	1~10%	497-19-8	非該当	非該当	非該当	非該当
精製水 (H ₂ O)	70~97%	7732-18-5	非該当	非該当	非該当	非該当

4・応急処置

眼に入った場合：

流水で15分以上洗い流した後、直ちに眼科医の手当てを受けること。その後も洗淨を続けること。眼に刺激が続く場合には、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

化学物質が除去されるまで、多量の水と石鹼で洗うこと。医師の診断、手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぐこと。

吸入した場合：

新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が回復しない時は医師の手当て、診断を受けること。

飲み込んだ場合：

口をすすぎ、速やかに医師の手当て、診断を受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状：

データなし

最も重要な兆候及び症状：

データなし

5. 火災時の処置

消化剤：小火災：粉末消火剤 二酸化炭素 一般の泡消火器

大火災：散水 噴霧水 耐アルコール性泡消火器

使用してはならない消火剤：棒状注水

消火方法： 状況に応じ、上記の消火器で消火する

消火後も大量の水を用いて、十分に容器を冷却する

消火者の保護：消火作業の際は適切な保護具（耐熱着衣、呼吸保護マスク）を着用する。

特有の危険有害性：

火災に巻き込まれると、燃焼を加速する。

加熱されたり火災に巻き込まれると、急速に分解する恐れのあるものがある。

酸類と爆発的に反応するものがある。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

漏れるとガス発生の危険がある。

蒸気、又は物質の吸入、摂取、接触（皮膚、眼）により、重症、炎症、死に至る恐れがある。

火災時に刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生する恐れがある。

消化水や希釈水は汚染を引き起こす恐れがある。

6. 漏出時の処置

人体にたいする注意事項、保護具及び緊急的措置：

- ①漏出付近から着火源や可燃性のものを速やかに取り除く。
- ②着火に備えて適宜な消火器を準備する。
- ③少量の場合：土砂、ウエスを用いて吸収させて空容器に回収する。その後漏出区域を多量の水で洗い流す事。
- ④多量の場合：土嚢などで流出を防ぎ、ポンプ等で空容器に回収する事。回収作業の際は保護手袋、保護マスクを着用する。
- ⑤室内で漏出した場合は窓、ドアを開けて十分に換気を行なう。
- ⑥河川や一般排水溝に流出しないように注意する事。
- ⑦火花が発生しないように、プラスチック製などの用具を用いて回収する。
- ⑧風上にとどまる。
- ⑨低地から離れる。

環境に対する注意事項：

河川等に排出され、環境へのえいきょうを起こさないように注意する。

漏洩物を回収し、あとで大量の水を用いて洗い流す。

容器内に水を入れない。

封じ込め及び浄化の方法・機材：

危険でなければ漏れをとめる。

少量の液体漏れ：バーミキュライト、砂あるいは土のような不燃材に吸収させ、容器に入れる。

大量のもれ：液体の漏洩物は前方に堰を作り、後で廃棄する。

二次災害の防止策：

排水溝、下水溝、地下室、或いは閉鎖場所への流入を防ぐこと。全ての発火源を取り除くこと。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意：

技術的対策：①周囲で火気、スパーク、高温物の使用は避ける事。

②換気の良い所で使用し、使用後は必ず密栓する事。

③暴露防止のために皮膚、目、顔を保護する適切な保護具（保護手袋、保護マスク、ゴーグル等）を着用する事。

④取り扱い後は手洗い、うがい、洗顔を十分に行なう。衣類に付着した場合は着替える事。

保管上の注意

①容器は密栓し、直射日光の当たる場所や高温になるところを避け、風通しの良い冷暗所で保管する事。

②保管は周囲での火気、スパーク、高温物との接触する場所を避ける事。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度： 未設定

許容濃度： 未設定

設備対策： この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

作業場には（防爆タイプの）全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具 呼吸器用保護具：適切な呼吸保護具を着用すること。

眼の保護具：適切な保護眼鏡を使用する。

皮膚の保護具：適切な保護手袋等を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観・形状： 無色透明か極淡黄色液体

臭気： 微量の塩素臭

溶解度： 水に溶解

融点： -5°C

沸点： 105°C

密度（比重）： 1.15

pH: 11.0~12.5

引火点: データーなし

発火点: 爆	データなし
発範囲: 蒸	データなし
気圧:	データなし
自然発火温度:	データなし
分解温度:	データなし
蒸発温度:	データなし
燃焼性:	データなし
粘度:	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性:	空気・熱・光に極めて不安定。
危険有害反応可能性:	弱酸・強酸と反応して有毒な塩素ガス・二酸化塩素ガスが発生し爆発をもたらす恐れがある。
避けるべき条件:	日光、熱、酸
混触危険物質:	各種弱・強酸化剤
危険有害な分解性生物:	腐食性を有する塩素、酸化作用を有する二酸化塩素・酸素を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性:	経口: マウスLD50 5ml/kg (4~6%液) Lc50 15ml~30ml(5%液)経口用事致死量 眼に対する重篤な損傷・刺激性: 眼刺激ウサギ10ml中程度 経皮: データなし 吸入: データなし
皮膚腐食性・刺激性:	ヒトの皮膚、眼に対する刺激、高濃度では薬症を示すとあるが、他の記載がなくデータ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷・刺激性:	ヒトの皮膚、眼に対する刺激、高濃度では薬症を示すとあるが、他の記載がなくデータ不足のため分類できない。
呼吸器感作性:	データなし
皮膚感作性:	データなし
生殖細胞変異原性:	データなし
発がん性:	データなし
生殖毒性:	データなし
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露):	「吸入により、鼻、喉の刺激、咳、呼吸困難を誘発する」とあるが詳細不明で判断できず、データ不足のため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露):	

データなし

吸引性呼吸器有害性：データなし

12. 環境衛生情報

水生環境急性有毒性

魚類・甲殻類：	オオミジンコ 48時間EC50=0.0146ppm (AQUIRE, 2003)から、 区分1とした。水生生物に強い毒性（区分1）
水生環境慢性有毒性：	急性毒性が区分1、水中での挙動及び生物蓄積性が不明なため、区分1と した。
藻類：	データなし。
その他の生物：	データなし
残留性・分解性	残留するが、有機物と反応して分解される。
土壌中の移動性：	データなし
生態蓄積性：	データなし

13. 廃棄上の注意

関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体が処理を行なっている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装：	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準 に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
-----------	--

14. 輸送上の注意

国際規制

IMDG（国際海上危険物規制）コード 5.1

国連番号： 1496

品名（国連輸送名）：

亜塩素酸ソーダー（濃度7質量%以下のもの）

国連分類： 5.1（酸化性物質類・酸化性物質）

容器等級： II

海洋汚染物質： 非該当

ICAO-TI（国際民間航空機関紙術指針）

積載禁止

国内規制：

陸上輸送： 消防法に該当する数量以上を輸送する場合は法令に従って輸送する事。

海上輸送： 船舶安全法の規定に従う。

国連番号 1496

品名	亜塩素酸ソーダー
クラス	5.1
容器	II
海洋汚染物質	非該当
安全対策：	運搬に際しては容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 容器は温度の上昇を防止すること 火気の使用を禁止すること

15. 適用法令

労働安全衛生法：	非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)：	非該当
毒物及び劇物取締法：	非該当
消防法：	非該当
船舶安全法（危規則）：	腐食性物質
航空法：	腐食性物質
海洋汚染防止法：	施工令別表第1有害液体物質Y類物質
化学物質管理促進法：	非該当
食品衛生法：	限定的食品添加物

16. その他の情報 | 引用文献等

配合原料のMSDS（製品安全データシート）	
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
化学大辞典	共同出版

※注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者はこれを参考として自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは安全の保証書ではありません。